

授業科目	解剖生理学 I	担当教員	外部講師☆	単位数	1	時期	1 年次 4 月～6 月	DP	1
			河村 洋子	時間数	1 5				
目的と目標	<p>人体の正常な構造を理解し、人体を構成する細胞・組織・器官の基本的形態について、機能や臨床的事項と関連しながら理解する。</p> <p>1 人間の身体はどのようにできているか、形態的にどのような部位があるか概観し、人間の生命を支えるためにどのようなシステムが働いているか理解する。</p> <p>2 生命の基本単位である細胞の構造と機能を理解するとともに、器官をつくる細胞群である 4 つの組織について理解する。</p> <p>3 人体の各器官の系統の構造と機能を理解する。</p>								
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員			
1	人体の構造と機能	(1) 人体を形から見る (2) 人体を機能から見る			講義	外部講師 (河村洋子)			
	細胞と組織	(1) 細胞の構造とその機能 (2) 上皮組織 (3) 結合組織 (4) 筋組織 (5) 神経組織							
2	構造と機能からみた人体	(1) 構造から見た人体 (2) 機能から見た人体 (3) 体液とホメオスタシス			講義				
3	運動器系	(1) 骨格とは			講義				
4		(2) 骨の連結 (3) 骨格筋 (4) 体幹の骨格と筋 (5) 上肢・下肢の骨格と筋 (6) 頭頸部の骨格と筋 (7) 筋の収縮							
5	消化器系	(1) 口・咽頭・食道の機能			講義				
6		(2) 腹部消化管の機能							
7		(3) 膵臓・肝臓・胆嚢の機能 (4) 栄養と代謝のメカニズム							
8	試験 (1 時間)								
評価方法	筆記試験 100 点								
教科書 参考文献	系看専門基礎 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 (医学書院)								
事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと。								
☆担当教員 の実務経験	看護師として医療機関等に勤務した経験を活かした授業展開をする。								

授業科目	解剖生理学Ⅱ	担当教員	外部講師☆	単位数	1	時期	1年次 6月～9月	DP	1
			河村 洋子	時間数	30				
目的と目標	<p>人体を構成する各器官の機能について系統的に理解する。</p> <p>1 人体の各器官の系統の構造と機能が理解できる。</p> <p>2 人体の活動を統合する働きや外界から防御するしくみが理解できる。</p> <p>3 ヒトという種の保存機能及び成長と老化について理解できる。</p>								
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員			
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	呼吸器系 血液・造血器系 循環器系 泌尿器系 内分泌系 神経系 感覚器系 (3時間) 生殖器と老化 試験 (1時間)	(1) 呼吸の調整 (2) 呼吸運動 (3) 肺の呼吸機能 (1) 血液の組成と機能 (2) 赤血球・白血球・血小板 (3) 血漿タンパク質と赤血球沈降速度 (4) 血液の凝固と繊維素溶解 (1) 循環の仕組み (2) 心臓の働き (3) 血圧・血流量の調節 (4) 循環器系の病態生理 (1) 腎臓の機能 (2) 尿生成のメカニズム (3) 腎臓から分泌される生理活性物質 (1) 内分泌とホルモン (2) ホルモンの機能と調節の実際 (1) 神経系の機能 (2) 脊髄・脳の機能 (3) 運動機能と伝達路 (1) 感覚機能と上行伝達路 (2) 眼の構造と視覚 (3) 耳の構造と聴覚・平衡覚 (4) 味覚と嗅覚 (1) 男性の生殖機能 (2) 女性の生殖機能 (3) 受精と胎児の発生 (4) 成長と老化			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	外部講師 (河村 洋子)			
評価方法	筆記試験 100点								
教科書 参考文献	系看専門基礎 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 (医学書院)								
事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと。								
☆担当教員の 実務経験	看護師として医療機関等に勤務した経験を活かした授業展開をする。								

授業科目	生化学	担当教員	外部講師 原 明	単位数	1	時期	1 年次 4 月～7 月	DP	1
				時間数	3 0				
目的と目標	<p>生命現象を化学的な視点からとらえて、生体に含まれる物質の性質や機能、生体内での物質代謝および生体の恒常維持のための機能調節を理解する。</p> <p>1 生体物質の構造と性質および生体内での働きが理解できる。</p> <p>2 生体内における栄養素などの物質代謝が理解できる。</p> <p>3 細胞や臓器の働きやその機能調節の仕組みが理解できる。</p>								
回数	学習課題	内 容				方 法	担当教員		
1	生体の成り立ち	(1) 細胞と生体分子				講義	外部講師 (原 明)		
2	生体物質の機能と代謝	(1) タンパク質とは				講義			
3		(2) 酵素の性質と働き							
4		(3) 生体内における糖質の代謝							
5		(4) 生体内における脂質の代謝							
6		(5) 生体内におけるアミノ酸、タンパク質の代謝							
7									
8		第 1 回試験 (1 時間含む)	(6) 生体内における核酸の役割 (7) ビタミンの働き (8) 消化・吸収と栄養価						
9	生体の恒常性	(1) ホルモンの働き				講義			
10		(2) 内部環境の恒常性							
11	生体の機能 (9 時間)	(1) 体液							
12		(2) 血液							
13		(3) 尿							
14		(4) 免疫							
15		(5) 各臓器の役割							
	第 2 回試験 (1 時間)								
評価方法	筆記試験 第 1 回 40 点 + 第 2 回 60 点 合計 100 点								
教科書 参考文献	わかりやすい生化学 (ヌーヴェルヒロカワ)								
事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと。								

授業科目	栄養学	担当教員	外部講師 井川 千春	単位数	1	時期	1年次 9月～12月	DP	1
時間数	30								
目的と目標	<p>種々の栄養素のはたらきを理解し、健康の保持・増進および疾病の治療・予防のために身体の構造と機能、ならびに食べ物の身体内での処理の様子を科学的根拠に基づいて系統的に学習する。</p> <p>1 栄養素の種類とはたらきおよびエネルギー代謝と栄養素の関係が理解できる。 2 食物の身体内での処理の仕組みが、人体の消化・吸収の仕組みと関連させて理解できる。 3 栄養状態の評価・判定の意義や方法が理解できる。 4 栄養ケア・マネジメントの意義や方法が理解できる。 5 成長・加齢と栄養との関連が理解できる。 6 臨床栄養の意義と食事療法の実践が理解できる。</p>								
回数	学習課題	内 容				方 法	担当教員		
1	栄養学序論・栄養素の役割	(1) 栄養と栄養素 (2) 栄養学の歴史				講義 演習	外部講師 (井川千春)		
2	栄養素の栄養的役割	(1) 栄養素の種類とはたらき							
3	食物の消化と栄養素の吸収・代謝	(1) 栄養素の消化 (2) 栄養素の吸収 (3) 栄養素の代謝							
4	エネルギー代謝	(1) 食品のエネルギー							
5		(2) 体内のエネルギー (3) エネルギー代謝の測定 (4) エネルギー消費							
6	栄養状態の評価・判定	(1) 定義と目的 (2) 栄養状態の評価・判定法							
7	ライフステージと栄養	(1) 発達各期における必要な栄養と課題							
8		①乳児期 ②幼児期 ③学童期 ④思春期・青年期							
9		⑤成人期 ⑥妊娠期 ⑦授乳期 ⑧更年期 ⑨高齢期							
10	臨床栄養	(1) 病院食 (2) 栄養補給法							
11	疾患別食事療法 (9時間)	(1) 循環器疾患患者の食事療法							
12		(2) 消化器疾患患者の食事療法							
13		(3) 栄養・代謝性疾患患者の食事療法							
14		(4) 腎臓疾患患者の栄養食事療法							
15		(5) がん患者の栄養食事療法							
		(6) 妊産婦・小児疾患患者の食事療法							
		(7) 術前・術後患者の食事療法							
		(8) その他の疾患の食事療法							
	試験 (1時間)								
評価方法	筆記試験 100点								
教科書 参考文献	人体の構造と機能 [3] 栄養学 (医学書院) 別巻栄養食事療法 (医学書院) 食品成分表 (女子栄養大学出版部) 糖尿病食事療法のための食品交換表 (文光堂)								
事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと。								

授業科目	生涯人間発達学	担当教員	外部講師 林 美里	単位数	1	時期	1年次 6月～11月	DP	1
				時間数	30				
目的と目標	<p>人間の胎生期から老年期までの成長・発達について、身体的・心理的・社会的側面から学び、人間理解を深める。</p> <p>1 現代の発達心理学の理論について理解する。</p> <p>2 発達段階に応じた発達課題を理解する。</p> <p>3 不適応には資質と環境の相互作用による人格形成上の問題があること、また、乳幼児期の親子関係と青年期の問題は関連していることを精神分析の見地から理解する。</p> <p>4 現代社会の変化と心身の問題について考える。</p>								
回数	学習課題	内 容				方 法	担当教員		
1	発達心理学の理解	(1) 発達とは (2) 発達心理の意義と必要性				講義	外部講師 (林 美里)		
2	人間と発達	(1) 人間の発達における共通性 (2) 発達に影響を及ぼす因子				講義			
3	発達理論と歴史的展開	(1) 前成説と後成説 (2) ロックの理論 (3) ルソーの理論				講義			
4	現代発達理論の理解	(1) ゲゼルの発達理論 (2) エリクソンの自我発達理論 (3) ピアジェの認知発達理論				講義			
5		(4) ボウルビイの愛着の理論							
6		(5) レビンソンの発達理論 (6) ハビィガーストの発達理論							
7	人間のライフサイクル	(1) 胎児期の心身の特徴				講義			
8	における発達段階と発達課題	(2) 乳幼児期の心身の成長と課題							
9		(3) 学童期の心身の成長と課題							
10		(4) 思春期の心身の成長と課題							
11		(5) 青年期の心身の成長と課題							
12		(6) 成人期の心身の成長と課題							
13		(7) 老年期の心身の成長と課題							
14	総復習	これまでの学習内容の総復習							
15	試験(1時間) まとめ(1時間)	(1) 筆記試験 (2) まとめ				試験 講義			
評価方法	筆記試験 100点								
教科書 参考文献	看護のための人間発達学 (医学書院)								
事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと								

授業科目	疾病治療学 I	担当教員	外部講師☆ ①循環器内科医師 ②循環器内科医師 ③心臓血管外科医師 ④整形外科医師 ⑤脳神経内科医師 ⑥脳神経外科医師 ⑦内分泌内科医師 ⑧産婦人科医師	単位数	1	時期	1年次 7月～10月	DP	1
			時間数	30					
目的と目標	<p>健康から疾病にいたる変化の過程、病因、病変の特徴および系統別疾患の病態・治療・検査について学ぶ。</p> <p>1 疾病の分類と成り立ちが理解できる。</p> <p>2 各疾患に必要なとなる検査・治療が理解できる。</p> <p>3 各系統別疾患に関する病態・治療・検査・予後を理解し、看護展開に生かすことができる。</p>								
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員			
1 2	総論	(1) 先天異常 (2) 代謝異常 (3) 循環障害 (4) 炎症 (5) 腫瘍			講義	外部講師 ()			
3 4	運動器系の障害	(1) 骨・関節・筋・神経 (2) 運動のメカニズム (3) 外因性（外傷性）の運動器疾患 (4) 内因性（非外傷性）の運動器疾患 (5) 運動麻痺			講義	外部講師 ()			
5 6	循環器系の障害	(1) 循環器系の疾病 (2) 循環機能の障害 (3) 循環器内科疾患 (4) 閉塞性の循環異常 (5) 循環器外科疾患			講義	外部講師 ()			
7 8					講義	外部講師 ()			
9 10	脳神経系の障害	(1) 脳機能障害によって起こる疾患 (2) 脳血管系の障害 (3) 脳圧亢進 (4) 脳神経外科疾患（くも膜下出血） (5) 脳神経内科疾患 (6) 脳梗塞・脳出血			講義	外部講師 ()			
11 12					講義	外部講師 ()			
13 14	内分泌・代謝障害	(1) 内分泌機能 (2) 糖質代謝異常 (3) 脂質代謝異常 (4) タンパク質代謝異常 (5) 内分泌系の腫瘍			講義	外部講師 ()			
15	生殖器系の障害	(1) 女性生殖器の疾患 (2) 主な症状 (3) 主な検査と治療			講義	外部講師 ()			

評価方法	筆記試験 100点 (1・2 : 12点、3・4、5・6、7・8、9・10、11・12、13・14 : 各13点、15 : 10点)
教科書 参考文献	疾病の成り立ちと回復の促進[1] 病理学 (医学書院) 成人看護学[10]運動器 [3]循環器 [7]脳・神経 [6]内分泌・代謝 [9]女性生殖器 (医学書院)
事前準備や 受講要件等	解剖生理学Ⅰ・Ⅱで関連する部分の復習をして臨むこと。 教科書を読んで講義に臨むこと。
☆担当教員 の実務経験	①②③④⑤⑥⑦⑧医師として医療機関等に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	疾病治療学Ⅱ	担当教員	外部講師☆ ①消化器内科医師 ②消化器内科医師 ③消化器外科医師 ④呼吸器内科医師 ⑤血液内科医師 ⑥腎臓内科医師 ⑦泌尿器科医師 ⑧眼科医師 ⑨永井 美貴 ⑩耳鼻咽喉科医師	単位数	1	時期	1年次 9月～12月	DP	1
			時間数	30					
目的と目標	<p>健康から疾病にいたる変化の過程、病因、病変の特徴および系統別疾患の病態・治療・検査について学ぶ。</p> <p>1 疾病の分類と成り立ちが理解できる。</p> <p>2 各疾患に必要なとなる検査・治療が理解できる。</p> <p>3 各系統別疾患に関する病態・治療・検査・予後を理解し、看護展開に生かすことができる。</p>								
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員			
1	消化器系の障害	(1) 消化器系の疾病			講義	外部講師			
2		(2) 消化管粘膜の障害と通過障害				()			
3		(3) 肝臓・胆嚢・膵臓の機能障害			()				
4		(4) 排便機能の異常			講義	外部講師			
4		(5) 排泄部位の変更による障害				()			
5	呼吸器系の障害	(1) 感染症、間質性肺炎			講義	外部講師			
6		(2) 気道疾患				()			
6		(3) 呼吸不全							
6		(4) 肺腫瘍							
6		(5) 酸素療法と機械的人工換気							
7	血液・造血器の障害	(1) 血液・造血器系疾患の特徴			講義	外部講師			
8		(2) 骨髄・血液の疾患				()			
8		(3) 骨髄移植、交換輸血、骨髄穿刺							
9	腎臓器系の障害	(1) 急性・慢性腎炎			講義	外部講師			
10		(2) 腎不全				()			
10		(3) 透析療法、腎移植							
11	泌尿器系の障害	(1) 上部・下部尿路系の疾患			講義	外部講師			
12		(2) 尿路系の腫瘍				()			
12		(3) 排尿障害							
12		(4) 人工膀胱造設術							
13	感覚器系の障害	(1) 眼科疾患			講義	外部講師			
14		(2) 耳鼻科疾患				()			
14		(2) 耳鼻科疾患				講義	外部講師		
15	(3) 皮膚科疾患			講義	()				
15	(3) 皮膚科疾患				外部講師 (永井 美貴)				

評価方法	筆記試験 100点 (1・2、3・4、5・6、7・8：各13点、9・10、11・12：各12点、13、14、15：各8点)
教科書 参考文献	成人看護学[5]消化器 [2]呼吸器 [4]血液・造血器 [8]腎臓・泌尿器系 [13]眼 [14]耳鼻咽喉 [12]皮膚 (医学書院)
事前準備や 受講要件等	解剖生理学Ⅰ・Ⅱで関連する部分の復習をして臨むこと。 教科書を読んで講義に臨むこと。
☆担当教員 の実務経験	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩医師として医療機関等に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	薬理学	担当教員	外部講師	単位数	1	時期	1年次 9月～12月	DP	1
			①酒々井 眞澄☆ ②大内 一輝	時間数	30				
目的と目標	薬物の特徴・薬理作用の基礎を学び、人体への影響及び薬物の管理について理解する。 1 薬理学の基礎的事項が理解できる。 2 薬物投与による体内での動態変化が理解できる。 3 薬物の作用機序及び副作用が理解できる。								
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員			
1	薬理学総論	(1) 薬理学とは何か			講義	外部講師 (酒々井眞澄)			
2		(2) 薬物動態・薬効力学・投与経路							
3	抗感染症薬	(3) 薬剤の管理							
4	抗がん薬	(1) 感染症治療に関する基礎知識			講義	同上			
5	免疫治療薬 抗アレルギー薬 抗炎症薬	(2) 抗菌薬、合成化学療法薬							
6	末梢での神経活動に作用する薬物	(1) 中枢神経系に作用する薬物			講義	同上			
7	中枢神経系に作用する薬物	(2) 抗がん薬の特徴							
8		(3) 抗がん薬の種類							
9	心臓・血管系に作用する薬物	(1) 免疫抑制薬			講義	外部講師 (大内 一輝)			
10		(2) 免疫増強薬、予防接種薬							
11	呼吸器・消化器・生殖器に作用する薬物	(3) 抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬			講義	同上			
12	物質代謝に作用する薬物	(4) 抗炎症薬							
13	救急時使用される薬物	(1) 交感神経作用薬、副交感神経作用薬							
14	輸液製剤・輸血剤	(2) 局所麻酔薬			講義	外部講師 (酒々井眞澄)			
15	漢方薬 (1時間)	(1) 全身麻酔薬							
	試験(1時間)	(2) 催眠薬、抗不安薬、抗精神薬			講義	外部講師 (大内 一輝)			
		(3) 麻薬性鎮痛薬							
		(1) 抗高血圧薬、狭心症治療薬							
評価方法	筆記試験 100点								
教科書参考文献	疾病の成り立ちと回復の促進[3] 薬理学 (医学書院)								
事前準備や受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと。								
☆担当教員の実務経験	医師として医療機関等に勤務した経験を活かした授業展開をする。								

授業科目	微生物学	担当教員	外部講師 後藤 隆次	単位数	1	時期	1年次 7月～10月	DP	1
時間数					15				
目的と目標	<p>看護上問題となる病原微生物の形態や性状、生体防御機構を学び、感染予防、感染症と人間社会の関係を理解する。</p> <p>1 微生物の基礎的事項を学ぶ。 2 微生物がヒトに対して及ぼす影響を理解し、その対策を学ぶ。 3 病原微生物を把握して、感染の拡大を防止する。</p>								
回数	学習課題	内 容				方 法	担当教員		
1	微生物学の成り立ち	(1) 微生物とは何か (2) 微生物学の歴史				講義	外部講師 (後藤隆次)		
2	感染と発病 滅菌と消毒	(1) 感染症の発病因子 (病原体・宿主) (2) 感染経路及び侵入門戸 (3) 滅菌法 (4) 消毒薬 (5) 感染性医療廃棄物とは、その処理				講義			
3	化学療法薬と薬剤耐性菌 感染症の予防	(1) 抗菌薬の作用機序 (2) 薬剤耐性菌の現状 (3) 感染症予防に関する法律				講義			
4	免疫	(1) 免疫とは (2) ワクチン (3) 過敏症、自己免疫疾患など免疫病				講義			
5	細菌と細菌感染症	(1) 細菌と細菌感染症 (2) 1類、2類、3類感染症 (3) 細菌感染症の感染防止、拡大防止				講義			
6	ウイルスとウイルス感染症	(1) ウイルスとウイルス感染症 (2) ウイルスの感染防止、拡大防止				講義			
7	真菌・原虫感染症	(1) 病原性真菌及び原虫感染症 (2) 病原性真菌及び原虫感染症の感染防止				講義			
8	試験 (1時間)								
評価方法	筆記試験 100点								
教科書 参考文献	疾病の成り立ちと回復の促進[4] 微生物学 (医学書院)								
事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと。								

授業科目	検査	担当教員	外部講師☆	単位数	1	時期	2年次 6月～7月	DP	1
			① 栗原 成郎 ② 長柄 敦子	時間数	15				
目的と目標	看護の対象理解のために必要な検査についての基礎的知識を学ぶ。 1 臨床検査の各検査法とその結果の解釈について理解できる。 2 画像検査・造影検査の方法とその結果の見方について理解できる。								
回数	学習課題	内 容				方 法	担当教員		
1 2 3 4 5	臨床検査	(1) 臨床検査の役割 (2) 臨床検査の種類 (3) 臨床検査結果の評価 (4) 検体の採取法、保存、移送法 (5) 検体検査 ①糞便検査 ②尿検査 ③腎機能検査 ④血球・血液象検査 ⑤凝固・線溶系検査 ⑥タンパク系検査 ⑦電解質・金属系検査 ⑧酵素系検査 ⑨肝・胆道系検査 ⑩糖質系検査 ⑪脂質系検査 ⑫内分泌系検査 ⑬腫瘍マーカー (6) 呼吸機能検査と検査結果の解釈				講義	外部講師 ()		
6 7	画像検査・造影検査	(1) X線検査(心胸郭比を含む) (2) コンピュータ断層撮影 (3) 磁気共鳴画像撮影 (4) 血管造影検査(心臓カテーテル検査を含む) (5) シンチグラフィ (6) 陽電子放射線断層撮影				講義	外部講師 ()		
8	試験(1時間)								
評価方法	筆記試験 100点 (1～5回:70点、6～7回:30点)								
教科書 参考文献	臨床検査(医学書院)、臨床放射線医学(医学書院)、看護に役立つ検査事典(照林社)								
事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと。								
☆担当教員 の実務経験	① ② 看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。								

授業科目	関係法規	担当教員	外部講師 鷲野 嘉映	単位数	1	時期	2年次 6月～7月	DP	1			
				時間数	15							
目的と目標	<p>法の概念を学び、医療・看護に関する主な法規について理解する。</p> <p>1 社会における法の意義が理解できる。</p> <p>2 医療・看護に関する法規の内容が理解できる。</p> <p>3 法的視点から看護職の責務を理解する。</p>											
回数	学習課題	内 容				方 法	担当教員					
1 2	法の基礎的知識	(1) 法の概念 (2) 生活と法 (3) 法の種類				講義	外部講師 (鷲野嘉映)					
3 4	医療・看護に関連する法規	(1) 保健師助産師看護師法 (2) 看護師等の人材確保の促進に関する法律 (3) 医療に関する法律				講義						
5	薬務法	(1) 薬事法 (2) 毒物及び劇物取締法 (3) 麻薬及び向精神薬取締法 (4) 大麻取締法 (5) 覚醒剤取締法				講義						
6 7	保健衛生法	(1) 母子保健に関する法律・制度 (2) 学校保健に関する法律・制度 (3) 成人・老人保健に関する法律・制度 (4) 精神保健に関する法律・制度 (5) 産業保健に関する法律・制度				講義						
8	試験(1時間)											
評価方法	筆記試験 100点											
教科書 参考文献	ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障④ 看護をめぐる法と制度 (MCメディカ) 国民衛生の動向 (厚生統計協会)											
事前準備や 受講要件等												

授業科目	公衆衛生学	担当教員	外部講師	単位数	1	時期	2年次 4月～5月	DP	1
			鷲野 嘉映	時間数	15				
目的と目標	<p>公衆衛生学は、社会・経済・行政を含めた多方面から、共同社会において、人間の精神的・身体的健康の保持・増進を図るとともに、疾病を予防して健康寿命の延長を図る学問である。本講義では、公衆衛生活動や研究方法を行うために必要な知識や方法論を学ぶ。</p> <p>1 公衆衛生の基礎的理解と応用力を習得する。 2 健康に関する情報を収集し、科学的吟味して利用する方法を習得する。</p>								
回数	学習課題	内 容				方 法	担当教員		
1	公衆衛生とは	(1) 公衆衛生の概念 (2) 健康と環境 (3) 疫学的方法				講義	外部講師 (鷲野嘉映)		
2	健康の指標	(1) 人口問題 (2) 人口動態統計 (3) 健康状態と受療状況				講義			
3	感染症とその予防	(1) 感染症の動向と感染症法の制定 (2) 感染症予防の基本				講義			
4	食品保健と栄養	(1) 食中毒 (2) 食品衛生管理 (3) 国民の栄養の現状				講義			
5	地域保健活動	(1) 地域保健法 (2) 地域保健の方向性				講義			
6	環境衛生	(1) 身の回りの環境問題 (2) 地球環境問題				講義			
7	社会保険関連法規	(1) 社会保険の概要 (2) 医療保険 (3) 社会福祉関係法 (4) 各年金法				講義			
8	試験(1時間)								
評価方法	筆記試験 100点								
教科書 参考文献	<p>わかりやすい公衆衛生学 (ヌーヴェルヒロカワ)</p> <p>国民衛生の動向 (厚生統計協会)</p>								
事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと。								

授業科目	社会保障	担当教員	外部講師☆	単位数	1	時期	2年次 4月～6月	DP	1
			櫻井 明子	時間数	15				
目的と目標	<p>人々の生活を支える社会保障に関する法律や制度について学び、看護の対象となる人々の福祉サービスの利用方法を学ぶ。</p> <p>1 社会保障の概要を体系的に理解する。</p> <p>2 生活問題に対応する社会福祉施策としての社会保障制度について理解する。</p>								
回数	学習課題	内 容				方 法	担当教員		
1	社会保障の概念と理念	(1) 社会保障の概念、目的、機能 (2) 社会保障の理念と日本国憲法				講義	外部講師 (櫻井明子)		
2	社会保障・社会福祉の動向	(1) わが国の社会保障制度の動向 (2) 保健医療の動向 (3) 社会福祉の動向				講義			
3	社会保障制度	(1) 社会保障の体系				講義			
4		(2) 社会保障の内容							
5		①医療保障							
6		②介護保障							
7	③所得保障								
8	④公的扶助								
8	試験(1時間)								
評価方法	筆記試験 100点								
教科書 参考文献	健康支援と社会保障制度 [3] 社会保障・社会福祉 (医学書院)								
事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと。								
☆担当教員 の実務経験	介護支援専門員として施設に勤務した経験を活かした授業展開をする。								

授業科目	社会福祉	担当教員	外部講師☆	単位数	1	時期	2年次 5月～7月	DP	1
			① 武山 修 ② 中村 仁隆	時間数	15				
目的と目標	社会福祉活動の実際を知り、保健医療福祉の連携の必要性や他職種の役割について学ぶ。 1 生活問題に対応する社会福祉サービス及び社会福祉の実践活動を知る。 2 医療現場における社会福祉士の役割を理解する。 3 社会福祉サービスと医療・看護との連携の必要性について理解する。								
回数	学習課題	内 容				方 法	担当教員		
1	社会福祉実践と医療・看護	(1) 社会福祉援助とは (2) 社会援助技術 (3) 社会福祉実践と医療・看護との連携 ①医療ソーシャルワーカーとは ②医療・看護・福祉の連携の実際				講義	外部講師 (武山 修)		
2	社会福祉分野とサービスの実際	(1) 高齢者への福祉サービス					外部講師 (中村 仁隆)		
3		(2) 障害者への福祉サービス							
4		(3) 児童家庭福祉サービス							
5		①児童福祉法と施策							
6		②母子保健法と施策							
7	③ひとり親家庭の福祉								
		④DV 対策							
		⑤児童虐待対策							
8	試験 (1 時間)	(4) 外国人への福祉サービス				外部講師 (武山 修)			
評価方法	筆記試験 100 点								
教科書 参考文献	健康支援と社会保障制度 [3] 社会保障・社会福祉 (医学書院)								
事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと。								
☆担当教員 の実務経験	社会福祉士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。								